(第三種郵便物認可) 島根日日新聞 企画特集 2009年（平成21年）2月 12日（木曜日） (6)

核大国の結節点にある 朝鮮半島と日本列島

歴史の転換点における 出雲の地政学的役割

世界金融経済危機に加え、日本孤立の兆候、基幹産業である自動車、電子産業の極度の不振、上場企業の連続倒産、過去に例のない失業者急増など、社会混乱が懸念される状況を迎えている。私たちが住む島根県はさらに、財政の極度の逼迫、人口の減少と少子高齢化、竹島問題などさまざまの難問を抱え、深刻な閉塞（へいそく）感が漂っている。ソビエト連邦崩壊の二年前にあたる一九八八（昭和六十三）年に会社経営のかたわら知事塾を開設、人間の本質的な力から出発する真の地域づくりを提唱、平和、環境、健康に関する実践的研究と小松昭夫理事長に、私たちが学ぶ現状とその打開策、出雲の果たす地政学的役割について菊地幸介島根日日新聞社主が聞いた。

―小松理事長は、県内有数の企業である小松電機産業の創業社長でもあります。まず会社を創業された経緯を。

小松 長男が家庭をめぐりがく、両親と祖母、二人の弟たちを抱えるため、同時に当然のことながら地元の就職を考えました。そこで家族と自分の未来に対する希望の両立を考えました。そこで家族と自分の未来に対する希望の両立を考え、本社と研究開発部門が地元にある佐藤機械（※1）に入社するため、松江工業高校機械科に入学しました。

入社後すぐ希望の研究開発に携わる事ができ、同時に学生時代に何をすべきかを考えました。学生時代に何をすべきかについてカウンセリングだと考え、その基礎技術を身につけるため、学生という立場を生かし、卒業論文を書くということでさまざまの農業機械メーカーから技術資料を送っていただきました。おかげで卒論最高賞をいただき、入社後、他社の農耕機の情報に一番詳しい開発者になり、トランジスタの開発を通じて先見性と、矛盾すること（※2）を同立する知恵と技術、工業デザインを通じて美を探求し、この経験が後の経営に役立ちました。

倒産する三年くらい前に、「この会社は危ない」と感じるようになり、いろんな方に相談しましたが、誰も真剣にとりあってくれませんでした。倒産に至る因果関係を研究するため、原因は社風にあるとの結論に到達しました。

倒産すること一カ月前から休業とり、安来市の清水寺へこもりで瞑想に通い、今後どのように生きるかを考えました。その最終日に雪のなか傘をさして石段を下る途中でひらめきがありました。

未来ではっきりしているのは死。それ以外にはっきりしているのは何もない。いつ来るかわからない死のときに「たのしい人生だった。だんだん」と言って死ねる状況をなるべく早くつくり、その状況を保ち、より高い次元の「世のため、人のため、自分のため」の人生を追求すれば、いつ死が来たとしても受け入れることができるに違いない。つまり〝想い〟の確立と現実化のために、いまなすべきことを考える（映像）キャラクター（個性）の三要素を探求し、先端技術をふくめさせてあらゆる組織を再構築しなければ持続的に繁栄できる未来は開けません。

会社の基礎体力をつくった後、門番、度の変化にとどまらず、人類史上初めて対立の文化から共生の文化へ転換を図れる、大胆に入るかの分水嶺に差し掛かった認識しています。

―日本も世界も厳しい状況におかれています。この時代に経営者・リーダーはどうあるべきだと思いますか。

小松 まず人間の条件である、強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない。〝やさしくて強い〟の条件はアインシュカート・ドイツ連邦大統領の「過去に眼を閉ざす者は、災いを福に変える使命から生まれる判断力です。先端技術が生かした仮説を立て、時代の風、地の利を得て、人の体験から、中国古典、松下幸之助翁経営語録のテーブを言って繰り返し聞く中で、〝社会変動があって絶対にぶれないタテ経営〟を念頭に、今日まで経営してきました。

三十五年の会社経営を通じて言えることは、〝楽して持続的に生きるために、何を確保し、何を譲るか。そこから「一隅を守り、千里を照らす」（※2）という考え方が生まれました。これが持続的に会社、自治体、国家を経営する原点であり、出雲大社の「和議（※3）につながると考えています。

―最近注目度平和博物館会議などに積極的に参加したり、定期的な国際会議の開催を目指しておられますが、人間自然科学研究所のコンセプトと設立の経緯は。

小松 一国で生きられる社会はないグローバル時代に、世界規模の金融経済危機を迎えています。これからは人類の特性である対立と依存、社会背景により異なる人間の定義と現代平学とにも、コンセプト（個性）コンテンツ（映像）キャラクター（個性）の三要素を探求し、先端技術をふくめさせてあらゆる組織を再構築しなければ持続的に繁栄できる未来は開けません。

私はこれまで、〝対立の文化の上に築かれた文明〟と考え、いまほどの終えん期、百年に一度の変化にとどまらず、人類史上初めて対立の文化から共生の文化へ転換を図れる、大胆に入るかの分水嶺に差し掛かった認識しています。

この認識の動くプロセスで個の輪が広がり、突破が増え、価値観が向上し、有能な人材を送れる人が増えるよう誘導することが政治であり、経済はこのためのインフラと手段であると考えています。

行政肥大化の構造

「リーダーは知って犯す罪よりも、知らなくて犯す罪がはるかに重い。知らなくて犯す罪の典型が、ゴルバチョフ前の共産党リーダーに最も必要とされる資質は、時代を象徴する能力と、未来に対してもやはり資質となる、ビスマルク・初代ドイツ帝国首相の「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」言葉通りの「歴史に学ぶ」ことと、「賢者は歴史に学ぶ」ことの違いは悪、経済な変理念はもの」こと「変を感じて万変を調べ」、まだ私のふるさとの松江市八雲町岩坂にある水の神八岡御祭礼衛（※5）の生き方は、首相、知事、市長、大学長、企業経営者をふくめ、あらゆるリーダーの指針と考えています。

リーダーは持続可能な社会と組織を維持するために、構想力と高度な戦略が必要で可欠です。具体的には外交、内政、安全保障、経済、財政、社会保障、教育、文化、環境、エネルギー、食料、地方自治、地域づくりなどの総合的な政策能力と、人材の育成、組織の活性化、危機管理、情報管理、広報、広聴、国際交流、国際貢献、国際協力、国際平和などの専門的な政策能力が必要です。

行政は、この循環が非常に進むための仕組みと、事務局の機能することです。一人一人の活力や思考性は奪われてしまい、行政に「お願いを繰り返すことになり行政もまたそれに応えることが事と錯覚し、ますます民間の創意工夫が失われ、肥大化を招き、財政破綻に至ります。

このなかで官僚を得ようとし、人材のとられない化に関係（いやな）感に満ちた社会になり、不毛の「不況対策（地域整備）」自立（団結）という言葉がはびこり、廃墟ができ、抗争を生み出し無気力、信の崩壊、社会崩壊に陥ります。

時代の風と現状を組み合わせ、思いを現実化する機会の多くの会社をつくってきました。倒産した二十六歳のときに、たくさんの悲劇を目の当たりにしました。その体験から、中国古典、松下幸之助翁経営語録のテーブを言って繰り返し聞く中で、〝社会変動があって絶対にぶれないタテ経営〟を念頭に、今日まで経営してきました。

三十五年の会社経営を通じて言えることは、〝楽して持続的に生きるために、何を確保し、何を譲るか。そこから「一隅を守り、千里を照らす」（※2）という考え方が生まれました。これが持続的に会社、自治体、国家を経営する原点であり、出雲大社の「和議（※3）につながると考えています。

―世界同時不況が懸念されています。外交、内政ともに多国とも問題が山積していますが、今どんな時代という認識でしょうか。

小松 人類は狩猟、農耕を経て、科学技術の発達とともに工業化社会を生み出しました。これは過去にない貧富の格差を生じ、内部対立にかがり、ナショナリズムの台頭を生み、国民は総力戦から甚大な損害を被るようになりました。

史上初の総力戦である第一次世界大戦の経験から国際連盟が発足しましたが、人類初の核兵器が使われた第二次世界大戦も防げませんでした。戦後、戦勝国を中心に国際連合を発足しましたが、朝鮮、ベトナム戦争、東西の核軍拡競争からソ連の崩壊に至り、その後の地球争はますます複雑化し、世界的規模の金融経済混乱期を迎え、危険な保護主義の兆候も見えてきました。米国はさらに武力を伴いながら資本性の対立と依存、社会背景により異なる人間の定義と現代平学とにも、コンセプト（個性）コンテンツ（映像）キャラクター（個性）の三要素を探求し、先端技術をふくめさせてあらゆる組織を再構築しなければ持続的に繁栄できる未来は開けません。

会社の基礎体力をつくった後、門番、度の変化にとどまらず、人類史上初めて対立の文化から共生の文化へ転換を図れる、大胆に入るかの分水嶺に差し掛かった認識しています。

―日本も世界も厳しい状況におかれています。この時代に経営者・リーダーはどうあるべきだと思いますか。

小松 まず人間の条件である、強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない。〝やさしくて強い〟の条件はアインシュカート・ドイツ連邦大統領の「過去に眼を閉ざす者は、災いを福に変える使命から生まれる判断力です。先端技術が生かした仮説を立て、時代の風、地の利を得て、人の体験から、中国古典、松下幸之助翁経営語録のテーブを言って繰り返し聞く中で、〝社会変動があって絶対にぶれないタテ経営〟を念頭に、今日まで経営してきました。

三十五年の会社経営を通じて言えることは、〝楽して持続的に生きるために、何を確保し、何を譲るか。そこから「一隅を守り、千里を照らす」（※2）という考え方が生まれました。これが持続的に会社、自治体、国家を経営する原点であり、出雲大社の「和議（※3）につながると考えています。

―最近注目度平和博物館会議などに積極的に参加したり、定期的な国際会議の開催を目指しておられますが、人間自然科学研究所のコンセプトと設立の経緯は。

小松 一国で生きられる社会はないグローバル時代に、世界規模の金融経済危機を迎えています。これからは人類の特性である対立と依存、社会背景により異なる人間の定義と現代平学とにも、コンセプト（個性）コンテンツ（映像）キャラクター（個性）の三要素を探求し、先端技術をふくめさせてあらゆる組織を再構築しなければ持続的に繁栄できる未来は開けません。

会社の基礎体力をつくった後、門番、度の変化にとどまらず、人類史上初めて対立の文化から共生の文化へ転換を図れる、大胆に入るかの分水嶺に差し掛かった認識しています。

―日本も世界も厳しい状況におかれています。この時代に経営者・リーダーはどうあるべきだと思いますか。

小松 まず人間の条件である、強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない。〝やさしくて強い〟の条件はアインシュカート・ドイツ連邦大統領の「過去に眼を閉ざす者は、災いを福に変える使命から生まれる判断力です。先端技術が生かした仮説を立て、時代の風、地の利を得て、人の体験から、中国古典、松下幸之助翁経営語録のテーブを言って繰り返し聞く中で、〝社会変動があって絶対にぶれないタテ経営〟を念頭に、今日まで経営してきました。

三十五年の会社経営を通じて言えることは、〝楽して持続的に生きるために、何を確保し、何を譲るか。そこから「一隅を守り、千里を照らす」（※2）という考え方が生まれました。これが持続的に会社、自治体、国家を経営する原点であり、出雲大社の「和議（※3）につながると考えています。

―最近注目度平和博物館会議などに積極的に参加したり、定期的な国際会議の開催を目指しておられますが、人間自然科学研究所のコンセプトと設立の経緯は。

小松 一国で生きられる社会はないグローバル時代に、世界規模の金融経済危機を迎えています。これからは人類の特

財団法人人間自然科学研究所理事長
小松電機産業株式会社代表取締役
小松昭夫 氏

1944（昭和19）年生まれ。1973（昭和48）年創業。社是「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」。1985（昭和60）年、シートシャッター「門番」開発・発表。1988年知事塾設立。1989（平成元）年、協同組合「テクノくにびき」設立。1992（平成4）年、韓国・東友FAとシートシャッター「門番」製造技術無償供与。上下水道制御管理システム「やくも水神」発表。1991（平成3）年、ニュービジネス大賞受賞。2007（平成19）年、地球温暖化防止貢献で国土交通大臣表彰。

◀朝鮮半島・日本列島から提案する「対立の文化から共生の文化へ」シンボルとして竹島独島に、「朝鮮戦争・参戦国の各国旗を着た「地球人生・結ばれる女性像」の建立を1999年に提案

金融資本主義から政治資本主義の時代へ

財団法人人間自然科学研究所が2008年6月に刊行した中日韓英の4カ国語で編纂された中国古典名言録

島根県大学名誉教授　内藤正中著『竹島＝独島問題入門』日本外務省『竹島』批判

島根県は2005年、「竹島の日」条例制定によって領有権主張を世界に向けて明確にしましたが、国政の場で韓国との交渉はされた形跡がありません。金融資本主義が破滅し、世界は混迷のときを迎えています。2月22日に第4回「竹島の日」を迎えます。このまれの状態で経済問題が深刻化すれば、必然的に朝鮮半島と日本列島への関心が急上昇し、国内外での不測の事態が懸念されます。朝鮮半島と対岸の日本列島では、世界に唯一残る冷戦構造と核大国の均衡のなか、時間と空間が機能し、抑制された対立が続いています。

朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、日本国の近代史を凝縮した象徴が、竹島独島と日本海東海の呼称問題です。他にも沢山問題がありますが、それらを総合的に生かし、出雲大社に伝わる和議文化を人類共通の財産とするために、このたび「中国古典名言録」を出版しました。当研究所内藤正中理事執筆の「竹島＝独島問題入門」出版とあわせまして、記念講演会・シンポジウムを開催いたします。

みなさまの積極的なご参加を、心よりお待ちしています。

財団法人 人間自然科学研究所
http://www.hns.gr.jp E-mail：webmaster@hns.gr.jp
TEL.050-3161-2490 FAX.050-3161-3846（0852-32-3620）
担当：小谷・堀江・藤井・川中・尹熙煥・徐佳・上田

協力：太陽の会・小松電機産業株式会社・大昌炭・美来子プリント社・南アーク工業所・南八雲自動車・センコン物流部・テクノコーティング南・湘ジーエヌ・湘ダイヤキコウ

和議から生まれる政党と共生文化国民国連

島根日日新聞社 社主　菊地幸介

現在進行形の国際関係構築

一国では生きられないグローバル時代のなかで、日本は国是がない。韓国、北朝鮮とも見えません。この点が我が国の最大のリーダー不在の原因です。楽して持続的に国と平和な政治資本主義の兆候が見られるよう、議論の場を提供いたします。ご参加、ご協力、ご意見をお待ちしています。

―東アジアは歴史に関わる緊張関係、経済的な摩擦があります。私たちは中国や韓国、北朝鮮の人たちとどのように接するべきだと考えますか。

小松 東西冷戦が終焉（しゅうえん）した、三大核大国である中国、露国、米国が均衡する位置に移り、人類の命運を担っている地球と認識しています。本年、この地域はさらに大きな苦難に見舞われる可能性があります。

「国際社会において、名誉ある地位を占めたい」と憲法前文にあります。日本人は、中国、朝鮮半島、アジアの人と正面から向かいあうためにも、加害の歴史を前提に「お互いに忘れ得ない」友好の架け橋を築くことが世界各国の戦争記念館を訪ねました。献花、寄付をする度に、「謝罪碑か」とか「平和主義者か」と問われますが、私は卑屈にならず、戦後責任を果たす世代という場で「歴史の転換期における「グローバル時代の日本人の経営者」と答えてきました。

来年は日露戦争（※7）勃発と、日韓併合から百年を迎えます。日本が朝鮮半島を併合したのではありません。日本は併合したのであり、中国が日本に侵略を送ったのであり、日露戦争は日本に侵略を送ったわけであり、各国に強奪電所にも呼ばれる戦争記念館がたくさんつくられており、日本人の明力と知恵と勇気と信頼力が試されています。

菊池寛氏生誕の年に、「恩讐の彼方に」では、被害者と加害者が一緒になって世のため人のために行う事業の完成は、怨念を、感激と感動に変える力があり、これによって一つのみ、人間にとって最も難しいといわれる「許す」気持ちが生まれると教えています。

―日本海をめぐる様々な問題の解決に向けてのようなアプローチをしていけばよいですか。

小松 竹島・独島問題をはじめ朝鮮半島と日本のあらゆる問題を、「世界の問題を解決する入り口」と捉えることが激流前文と教育性が不可欠です。そうすれば激流前文と教育の国家の制定に向けて、希望のある議論が始まります。

島根県の竹島に対する取り組みは、世界に対する取り組みであり、「竹島＝独島問題入門」は、韓国マスコミでも大きく取り上げられました。

日韓両国の中、中東の安西諸戦の中、中東の安全の提供を受けてきました。現在の世界から考えれば、「竹島両国」取り組みは、「竹島＝独島問題入門」は、韓国マスコミでも大きく取り上げられました。

日韓両国